

令和 7 年 5 月 14 日

原案Ver2

伊賀市長 稲森 稔尚 様

だんじり会館のあり方等検討委員会
委員長 小林 慶太郎

だんじり会館のあり方等について（最終答申）

令和 6 年 9 月 20 日付け伊觀第 256 号で諮問があったことについて、慎重に審議をした結果、別紙のとおり意見がまとまりましたので、委員会の総意として、最終答申書を提出します。

1. はじめに

上野天神祭のダンジリ行事は、国重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産の一つ（「山・鉢・屋台行事」）としても登録された市を代表する歴史的・文化的価値を有する行事であり、かつ、行事の3日間で15万人以上を集客する貴重な観光資源でもあります。しかしながら、近年の人口減少や少子高齢化に伴う担い手の不足により、行事そのものの催行や次世代への継承が大きな課題として顕在化しており、これらへの対応は祭り町だけでなく市全体の課題として捉えるべきです。

だんじり会館は、「上野天神祭のだんじり及び鬼を保存・管理し、一般の参觀に供するとともに、郷土文化の振興に資すること」を目的に、平成元年に旧上野市により整備され、現在は指定管理施設として運営されていますが、開館から **36年** が経ち、社会情勢や周辺環境の変化に加え、建物自体の老朽化という大きな課題に直面しています。

当委員会は、だんじり会館のあり方検討にあたり、当該施設の運営目的を、貴重な文化芸術であり地域資源でもあるダンジリ行事を将来にわたり維持・継承し、市全体の活力として生かしていくことと捉え、それらの実現に向けた課題を解決するために、市全体として何が必要かを明確にしたうえで、それらに対し行政としてどのように関与すべきなのかという観点で検討を進めてきました。

ダンジリ行事をはじめとした地域の伝統的な祭り行事は、元来、それぞれの地域で暮らす人々の生活の営みや歴史の積み重ねの中で「祭り文化」として醸成・継承されていくものです。広大かつ長い歴史を誇る伊賀市においては、その各地域において、特色ある貴重な「祭り文化」が数多く継承されており、それらは大小問わずそれぞれの歴史・文化的価値を有するものです。その点において、近年の人口減少に起因する担い手の不足と祭事の維持・継承における課題は、ダンジリ行事に限られたものではなく、当委員会において議論を重ねた本答申内容は、他の「祭り文化」のあり方や市全体の文化振興のあり方にも通じるものであると考えます。

加えて、それら「祭り文化」の維持・継承に関する行政の関与に関しても、まちづくりの全体像を見据えた上で、市内他地区の祭りや、俳句（芭蕉）などの他の文化的な取組みとのバランスも考慮し、市による文化振興策が、財政的に過大な負担となって未来の市民を苦しめないようにする必要がある事も申し添えます。

2. 「祭り文化」の振興（維持・継承）におけるるべき姿（総論）

～核となる祭り町（主体者）、市全体及び外部との関係性（構造・概念）～

「祭り文化」を維持・継承していくためには、「内部（地元住民）の風土醸成」と「外部（観光客やお手伝い）の啓蒙」の2つの軸で考えていく必要がありますが、まずは、祭り町の人々が自らの文化を楽しみながら将来に受け継いでいくことを第一に考えるべきです。その点では、各地域のコミュニティにおける世代を超えた関係性を繋ぐ役割としての「祭り文化」の意義を、改めて重要視するべきであり、地域住民をはじめとした「祭りを主体的に担う人たち」が自ら祭りを支えるという意識を持っていただくことが何より肝要です。

加えて、市内の各地域が、それぞれの文化を互いに理解しあうことで、祭り町はもとより、多くの市民がその文化に対する誇りと愛着を持ち、市全体として大切にすべきものとして、皆が楽しみながら将来に受け継いでいくという姿を目指すべきです。

また、これらの内部（地元住民）の風土醸成には、学校教育との連携を通じて幼いころから地域固有の文化に対する興味・関心を高め、地域への誇りを醸成し、「生活の中に文化がある」状態をより強めていくことが重要であると考えます。

行政の関与については、前述のとおり、まずは、祭り町の人々による自発的・主体的な機運が醸成されていることを前提に、それを市全体として共有することを目的として、文化振興、文化財保護、地域振興、学校教育、生涯学習などを担当する各部署が横断的に連携し取り組んでいくべきです。また、文化や祭りには、その姿を見てもらうことにより成立する要素もあることから、外部（地域外）への働きかけ（情報発信、観光誘客）は、広報、観光振興、中心市街地活性化推進、地域創生などを担当する行政の各部署が地域と連携して取り組むべき事の一つであると言えます。

3. ダンジリ行事の維持・継承に必要な取組（方法論）

伊賀市には様々な祭り行事がある中で、ダンジリ行事の特色は、①見物客が介在することが前提となった「魅せる行事」であること。②幕や面など貴重な有形文化財を有していること。③各町の異なるお囃子など無形民俗文化財のバリエーションが豊富であること。が挙げられます。また、それらの特色に起因する課題としては、①行事の規模が大きく、催行には多くの人手が必要であること、②幕や面など多様な文化財の保護に多くのコストがかかること、③お囃子などの無形文化の継承には一定の習得期間が必要であり、祭り当日だけの協力では継承されないことなどが挙げられます。

これらを鑑みると、ダンジリ行事の維持・継承に必要な取組は、以下の2点であると考えます。ただし、各町によって事情が異なるため、一方的、画一的な取組では、かえって混乱を生む可能性もあることから、祭り町との意思疎通を十分に行なったうえで、取り組む必要があります。

① 体験・学習機会の創出によるファンやサポーターづくり

伊賀市を好きになって移住してきた人たちをはじめとして、旧郡部の市民や子どもたちなど、広く市内外の人たちに上野天神祭を知っていただき、そのファンになっていただくことで、担い手（曳手や囃子方など）の確保につなげていくという考え方を市全体で共有することが必要です。

その上で、具体的な取組手法としては、体験型の講座、子どもたちの見学・体験、インターネット上のバーチャルな体験、学芸員等による説明の充実など、様々な方法が考えられます。

市の役割としては、祭り町とファンやサポーターのマッチングが重要です。またまツテがある市民だけが担い手になれ、そうではない市民は見てるだけという状況では、公金を支出して保存振興していく文化のあり方としては、公平感が乏しく不適切だと言えます。市職員や三重大学留学生などにとどまらない、参加を希望する組織・団体を募集する仕組みづくりなど、様々な手法が考えられます。また、各町の囃子を、映像記録に残しておくことも、文化財の維持・継承という観点から必要であると考えられます。

② 有形文化財の適切な保存・管理

有形文化財の展示は、関連する文化の振興の面では重要なことですが、本来、有形文化財の保存・展示には、文化財保護の観点からそれぞれの材質や種類に合わせた適切な温度や湿度、**照度**の管理が必要です。

現在、だんじり会館では、だんじり本体や、だんじり幕（引退幕も含めて）など、文化財として指定されているか否かに限らず、将来にわたり適切に保存すべき文化財が複数展示されていますが、その保存・管理状況は必ずしも最適な環境条件であるとは言えないという専門家や有識者からの指導もあり、課題も多いといえます。

一方で、特に、だんじり幕は、江戸時代から続くダンジリ行事の歴史を深く理解する上で貴重な存在であり、こうした文化財の展示を活用しつつ、祭り町と祭り町以外の市民及び市外からの来訪者との間でコミュニケーションを深め、交流を図ることは、文化の継承・発信において有用であることから、学芸員**等**による企画展示や解説などを通じて、その歴史的背景や魅力を伝え、総合的な理解を促す工夫も必要です。

これらに対する行政の関与としては、有形文化財の適切な保存は、元来それらを所有する各町が責任を持って行うべきものですが、引退幕を含め、町で維持できない文化財については、市が責任を持って管理していくこともやむを得ないと考えます。いずれにせよ、文化財の保存と活用の推進には、有形・無形に限らず、一定の経費が必要であり、祭り町とその他の民間の関係者と行政との負担割合や財源確保の方策については、市全体での合意形成が求められます。

これらを総合的に鑑みると、文化財的価値のある有形資料の展示を検討する場合は、**文化財的な価値に配慮をした様々な手法を**検討するべきです。

4. だんじり会館の現状評価と改善方針

当委員会が考えるダンジリ行事の維持・継承に必要な取組に対し、現在のだんじり会館において指定管理者が実施する展示等の運営内容は、①有形文化財の適切な保存・管理がなされていない、②学芸員等による文化的・歴史的・社会的な価値の伝達・発信を十分に行えていない、③旧郡部の市民にとって縁遠い施設になっており全市民のための施設となっていない、という点に加え、祭り町関係者との意見交換によると、指定管理者と祭り町との意思疎通も不足していると考えられる点も見受けられました。これらを踏まえると、市が公共施設として現在のまま維持運営し続けることは適当であるとは言えません。

見直し改善にあたっては、施設自体のあり方ではなく、「だんじり文化」の維持・継承に必要な取組をどのように実施するかという視点で検討するべきであり、それらの取組は、他の文化振興及び観光振興施策と可能な限り一体的かつ有機的に行なうことが望ましいと考えます。

その上で、それらの機能を有する施設を考えるとすれば、他の文化施設と機能を統合した又はまちなか観光・回遊の起点や伊賀の歴史・文化の情報提供の場などの複数の機能を有した施設として整備することが望ましく、また、それらの運営に関しては、学芸員等が核となり、それぞれの役割を担う組織・団体等が連携し、文化振興及び観光振興に貢献していくことが望ましいと考えます。

5. 結論

- ① 市全体でのだんじり文化の振興や、だんじり幕をはじめとした有形文化財の適切な展示及び**保護**など、設立当時から当該施設が果たすべき目的や機能に加え、人口減少や少子高齢化に伴う担い手の不足による上野天神祭のダンジリ行事そのものの催行や継承における新たな課題への対応策として、現在市が指定管理業務として提供している行政サービスは、適切かつ十分であるとはいえない。
- ② 上記に関する改善・見直しにあたっては、当該施設の設立以降、社会情勢や周辺環境が大きく変化していることに加え、市の文化振興全体の観点から、現状の場所、役割分担及び手法に拘ることなく、今後、市が進める文化関連施設の整備検討をはじめ他の文化振興**及び観光振興**施策と可能な限り一体的かつ有機的に行うべきです。
- ③ 当該施設の建物及び所在する場所の利活用については、伊賀市にぎわい忍者回廊整備事業などにより、今後、市民や市外からの来訪者の動線をはじめとした周辺環境が更に変化することを前提に、他の公共施設や観光関連施設等の機能を補完**あるいはそれらと連携しうる**、市民と市外からの来訪者の両方にとて有益となる方策を幅広く検討するべきです。